

平成30年度
事業報告書

自：平成30年4月 1日
至：平成31年3月31日

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

概 況

平成30年度は、健全で安定した経営基盤の維持、公益実現への貢献ならびに社会からの期待に相応しい事業運営を目指すことを使命に、積極的に事業活動を展開した。

管理運営活動では、所要の会議を開催することにより、関係者との協議・合意形成を図った。また、事業活動では、琵琶湖・淀川水系の健全な水環境の実現のための調査研究、広報啓発、活動支援事業を行うとともに、成果報告会や各種広報媒体を通して、引き続き「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をキャッチフレーズとして掲げ、「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するために、琵琶湖・淀川水系が抱える水環境課題の解決に向けた取組みを実施した。

I . 管理運営活動等

1. 評議員会、理事会、評議員会・理事会幹事会等

評議員会、理事会、評議員会・理事会合同幹事会、府縣市等担当者会議を開催し、事業運営全般について検討・審議を行った。

(1) 評議員会

第1回評議員会（決議の省略）の開催

評議員会運営規程第9条の規定に基づく決議の省略により、評議員及び理事の選任につき平成30年5月15日に評議員会の決議があったものとみなされた。

第2回評議員会

- ・日 時 : 平成30年6月21日 午前10時～10時55分
- ・場 所 : 大阪府立男女共同参画・青少年センター 4階中会議室2
- ・議 案 : ・平成29年度事業報告及び決算書類の承認
・有価証券の評価基準及び評価方法の変更に対する承認

第3回評議員会（決議の省略）の開催

評議員会運営規程第9条の規定に基づく決議の省略により、評議員及び理事の選任につき平成30年7月20日に評議員会の決議があったものとみなされた。

第4回評議員会

- ・日 時 : 平成31年3月1日 午後2時～2時45分
- ・場 所 : 大阪府立男女共同参画・青少年センター 4階中会議室2
- ・議 案 : ・平成30年度収支予算書（補正）の承認
・平成31年度事業計画の承認
・平成31年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認

(2) 理事会

第1回理事会（決議の省略）

定款第36条に基づく決議の省略により、下記の事項につき平成30年

5月1日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ・平成30年度第1回評議員会を決議の省略で実施する。

第2回理事会

- ・日時：平成30年6月4日 午後2時～2時55分
- ・場所：国民會館武藤記念ホール 小ホール
- ・議案：
 - ・平成29年度事業報告及び決算書類の承認
 - ・有価証券の評価基準及び評価方法の変更に対する承認
 - ・公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構職員就業規則の変更に対する承認
 - ・平成30年度第2回評議員会の招集
- ・報告事項：
 - ・理事長・常務理事の職務の執行の状況

第3回理事会（決議の省略）

定款第36条に基づく決議の省略により、下記の事項につき平成30年7月2日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ・平成30年度第3回評議員会を決議の省略で実施する。

第4回理事会（決議の省略）

定款第36条に基づく決議の省略により、下記の事項につき平成30年10月4日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ・顧問の選任

第5回理事会

- ・日時：平成31年2月7日 午前10時～11時15分
- ・場所：国民會館武藤記念ホール 小ホール
- ・議案：
 - ・平成30年度収支予算書（補正）の承認
 - ・平成31年度事業計画の承認
 - ・平成31年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認
 - ・平成30年度第4回評議員会の招集
- ・報告事項：
 - ・理事長・常務理事の職務の執行の状況
 - ・平成31～32年度学術委員について
 - ・理事長先決報告（職員給与規程の一部改正）
 - ・有価証券の売買について

（3）評議員会幹事会・理事会幹事会

第1回評議員幹事会・理事会幹事会合同会議

- ・日時：平成30年5月25日 午前10時～11時30分
- ・場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター大会議室1
- ・議案：
 - ・第2回理事会の案件
 - ・第2回評議員会の案件

第2回評議員幹事会・理事会幹事会合同会議

- ・日時：平成31年1月30日 午後2時～2時50分
- ・場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター大会議室3
- ・議題：平成30年度第4回評議員会の開催、第5回理事会の開催

Ⅱ．事業活動等

平成30年度は、引き続き琵琶湖・淀川流域における水環境問題を流域全体で解決するための一翼を担い、「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をキャッチフレーズに、調査研究事業、広報啓発事業および活動支援事業を実施した。

1. 水質保全調査研究事業

(1) 水質保全調査研究開発事業(自主事業)

流域全体が取り組むべき課題、自治体を超えて解決することが効率的、効果的な課題を対象に、行政が適切な施策を講じるために有用となる調査研究に取り組み、流域全体の水環境保全の向上、また、流域連携の推進に寄与することを目的としている。

さらに、流域の水質・水環境情報や成果を当機構のWEB上に公開するとともに、調査研究成果等は関係府県・機関の施策等に活用してもらえるよう評議員会、理事会、幹事会の他、研究助成成果報告会や学会等の機会を利用し、研究成果の情報・知見の提供に努めている。

① 琵琶湖・淀川流域におけるノンポイント汚染を対象とした水質管理等の流域連携特別研究

流域自治体との連携を強め共通の課題解決を図ることを目的として、平成29、30年度は、今後の水質管理計画に有効活用できるよう流域の研究機関と「ノンポイント汚染（非特定源汚濁負荷）」を対象とした検討会に取り組んだ。本研究では、非特定源汚濁負荷対策の新たな視点として、水質保全が目的の対策以外にも、水質保全が主たる目的ではないが、複合的、または、結果的に汚濁負荷削減に寄与し水質保全の効果をもたらす対策についても知見や情報を収集した。そして、琵琶湖・淀川流域が一体となって重層的に非特定源汚濁対策を推進するために、今後の水質保全のあり方や把握・評価、実施等の提言を整理した「とりまとめ（案）」を作成した。

また、本特別調査研究は、平成31年3月22日大阪府立男女共同参画・青少年センターにて、成果報告会「琵琶湖・淀川流域における非特定源汚濁を対象とした検討」を実施し、当機構HP上に概要版の資料を掲載している。

② 流域の水質保全のための流入汚濁負荷調査研究

琵琶湖・淀川流域の水質保全のために、水質改善が進まない地域の汚濁負荷量や発生源の影響等について検討を実施している。木津川上流域では、木津川上流のダム群の富栄養化によるアオコ発生や、浄水場でのトリハロメタン生成能の問題などの水質の課題を抱えている。平成30年度は引き続き関係機関の協力を得ながら、流入河川も含めた発生源の実態や水質特性について、官学連携による調査研究を行った。

(2) 調査研究の成果の発表や周知

① 学会・シンポジウム発表

- ・第40回京都大学環境衛生工学研究会シンポジウム（2018年7月、京都）
野口・和田・西村 他 「木津川上流における河川水質特性に関する調査研究」
- ・第17回世界湖沼会議（2018年10月、茨城県）
和田・津野 “Cooperation for Study on Refractory Organic Matter in

the Lake Biwa-Yodo River Watershed”

- ・第53回日本水環境学会年会（2019年3月、山梨）
和田 他 「琵琶湖淀川流域における流出形態の変化と非特定源汚濁負荷量の把握」
- 西村・和田 「木津川上流における水循環利用に関する基礎的研究」

② 講演、社会活動等

【講演】

- ・受賞記念セミナー，琵琶湖環境科学研究センター招待講演（2018年8月、滋賀）
「難分解性有機物の研究をどのように活かせるかー難分解性有機物に関する琵琶湖・淀川流域の総合的な研究の推進ー」
- ・第55回日本水処理生物学会 水道生物研究集会招待講演（2018年11月、福島）
「琵琶湖と淀川水系における水環境の動向を探る」

【社会活動等】

- ・環境省環境調査研修所 講義（2018年8月）
国や自治体職員を対象とした水質分析研修においてデータ活用・解析等の意義
- ・第11回国際水協会 IWA-WWC,東京都水道局サイドイベント出演(2018年9月)
「世界の水問題と日本の水事情」のトークセッション
- ・国際協力機構（日本工営, JICA）ベトナム国流域水環境管理能力向上プロジェクト研修講義（2018年10月）「琵琶湖流域の水環境管理の改善に向けて」
- ・国際協力機構（クリアウォーター大阪, JICA）マレーシア河川における水質浄化オペレーション及び管理研修講義（2018年10月）
「河川浄化システムの理論と実際」
「琵琶湖・淀川流域における水利用・水質浄化の紹介」
- ・国際協力機構（国際湖沼委員会ILEC, JICA）水資源の持続的な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理研修講義（2018年11月）
「琵琶湖・淀川流域における水利用、水質浄化技術の紹介」
「大阪における下水道の概要と河川・大阪湾における水質保全について」

③ 出展等

- ・「びわ活」発表会・交流会（6月26日「ピアザ淡海（大津市）」）
- ・マザーレイクフォーラム（8月26日「コラボしが21（大津市）」）

（3）琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の公表

平成29年度の調査研究成果や活動実績についてとりまとめ、BYQ水環境レポートに掲載した。

（4）学術委員会の開催

琵琶湖・淀川水系の水質保全のために実施している調査研究事業の内容を報告し、学術委員から幅広く指導や助言を得た。

- ・日時、場所：平成31年1月10日、キャンパスプラザ京都 2階第1会議室
- ・審議報告事項
 - 水質保全研究助成について
 - 水質保全調査研究について
 - こども水質保全活動について

2. 水質保全広報・啓発事業

(1) BYQ水環境レポートによる水環境情報の広報

琵琶湖・淀川流域における水利用や水質の状況、変遷等の情報を一元的に取りまとめた年次報告書「BYQ 水環境レポート」を、継続して発行・公表している。平成30年度は、平成29年度版を作成し、関係機関に印刷冊子を配布するとともに、幅広く一般広報する目的から、機構のWebページにも「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」として掲載した。

(2) WAQU²調査隊による水環境保全の啓発

身近にある湖沼や川の状況を、流域に住む住民自らが主体的に出向いて調べることにより、その水質に興味を持ち、水に親しみを感じ、さらに水環境について考えてもらうことを目的に実施している。年1回、隊員が河川の水質（化学的酸素要求量、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、りん酸態りん）を調査し、年度末に調査報告を取りまとめた。また、「身近な水環境の全国一斉調査（全国水環境マップ実行委員会主催、国土交通省・環境省後援）」にも参加した。

- ・平成30年度：隊員数208人、調査地点279カ所
- ・調査日：平成30年6月3日

(3) BYスタンプラリーによる水環境保全の啓発

市民団体が主催する水質保全活動への参加や水関連施設の見学を通して、流域住民が水環境への関心を高めていくことを目的に実施している。市民団体が主催するイベントや水環境関連施設の紹介マップを掲載した「かわら版」を年3回発行し、Web上に公開するとともに、市民団体や水環境関連施設等に配布した。

- ・平成30年度：協賛施設21施設、協賛団体 NPO・市民団体等51団体
- ・参加者数：57人

(4) 水情報冊子「散策ブック」による琵琶湖・淀川流域の広報・啓発

琵琶湖・淀川流域内の河川に関する幅広い情報を紹介・広報し、流域住民の水環境への関心を高めていくことを目的に冊子を配布した。

3. 水質保全活動支援事業

地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域が抱える水質保全の課題解決に資することを目的に水質保全研究助成を実施した。また、次世代の水質保全活動の担い手の育成を進めるため、琵琶湖・淀川流域の小・中・高・特別支援学校、NPO法人、市民団体等が行う水質保全活動に対して活動助成を行った。

(1) 水質保全研究助成

平成30年度は、応募数14件のうち4件を水質保全研究助成選考委員会にて採択した。助成した研究内容について3月に報告会を開催し、幅広く助成成果についての情報共有を図った。

【平成30年度募集分野】

① 新たな富栄養化の課題・視点や異臭味の発生に関する調査研究

閉鎖性水域（湖沼やダム湖他）の水質課題の解決策に資する研究を対象
例えば、富栄養化に関する新たな現象、課題、研究の切り口、研究方策、水域生態系での物質循環、適正な富栄養化レベルなど

- ② 安全で安心な水のための健康リスクに関する調査研究
水系病原性微生物、微量有害化学物質等の水環境中での挙動把握、人や水生生物への影響評価、削減技術や施策等に関する研究を対象
- ③ 流域水環境管理のための水質指標に関する調査研究
水質汚濁・汚染に関係する指標、気候変動が及ぼす水温・水質影響に関係する指標などの開発や評価手法に関する調査研究を対象

【平成30年度採択助成研究】

- ・湖沼における細菌由来溶存有機物の寄与：鏡像異性体バイオマーカーを用いた定量法の確立
- ・淀川水系に生息するレジオネラ属菌と宿主となる自由生活性アメーバに関する研究
- ・水道水源における消毒副生成前駆物質の特定と生成特性の把握
- ・琵琶湖における微生物群集の増殖解析

【平成30年度成果報告会】

- ・日時、場所：平成31年3月22日、大阪府立男女共同参画・青少年センター
- ・参加者：49名（行政・事業体関係者、教育・研究者、企業関係者、市民）

(2) 琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成

平成30年度は、応募数13件のうち8件をこども水質保全活動助成選考委員会にて採択した。また、平成29年度に助成した活動について8月に報告会を開催し、助成成果についての知見共有と交流を図った。

【こども水質保全活動助成の視点・内容】

- ① 琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
- ② 上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
- ③ 今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること

【平成30年度採択助成活動】

- ・地域と創る杣川水族館 seasonⅡ
- ・先人に学ぶ石垣、堰堤と水辺を活かす川とのつきあい方
- ・体験から学ぶ環境学習（琵琶湖や川の恵みを感じよう！）
- ・世界へ発信しよう！ 琵琶湖や滋賀の水辺
- ・子どもたちによる「鴨川の水質と水生生物調査」
- ・琵琶湖・淀川を大切にし、もっと楽しむために
- ・旭区の宝『城北ワンド』と琵琶湖・淀川の関わりを学ぶ
- ・水辺で楽しもう

【平成29年度成果報告会】

- ・日時、場所：平成30年8月1日 午後1時15分～午後4時30分
大阪府立男女共同参画・青少年センター 5階セミナー室2
- ・参加者：34名（行政・事業体関係者、教職員・学生、NPO関係者）
- ・内容
活動成果発表：助成対象7団体
全体意見交換